

早稲沢川 (下降)

一九七九年七月二十二日

◆天気(晴)

尾根上で木に登り現在地を確認したあと下降にかか
る。キノコ栽培の跡と思われる朽ち果てたブナの大木が
いたる所であり足をとられた。また山ブドウのつるに足
をとられ、アザミやイラクサになやまされながら下る。
左俣との合流点からは山菜道があったので、それを利用
して林道へ出る。

(記:)

〔タイム〕

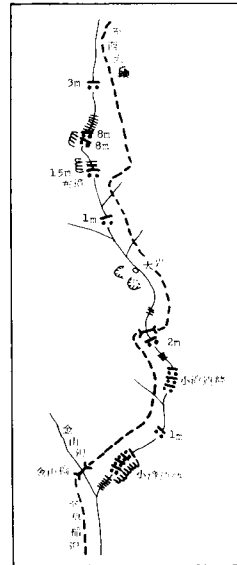
下降点一・一〇〇―林道一三・二五

吾妻川

一九八〇年七月二十日

◆天気(晴時々曇)

吾妻の沢の廻行は割合と日帰りか、夜行日帰りが可能
であり、容易にとりつけるものが多い。そんな中に西吾



吾妻川
(作図:)

妻山周辺を源とする大小多くの沢があり、吾妻川もその
一つである。

七・〇〇福島発。早稲沢部落を過ぎ、すぐ右の林道へ
入る。一・五キロ程進むと金山橋がある。ここが出发点だ。
九・〇〇金山沢に入るパーティと別れて廻行開始。水
量は割合に多く、前方に滝があることを思わせる沢の状
態であった。最初から小さなナメと小滝が連続する。期
待感を高めていたら徐々に平凡になってきた。九・五〇
登山道の木橋に出合い、そこで休憩する。付近にはフキ
やワサビ、ミズナが豊富にあった。

沢筋が急に細くなってくる。一時間位沢に覆いかぶさ
るヤマブドウなどをこえながらゆくと、少し広いゴロ口
となる。「今日の沢はダメダ」とあきらめぎみに進んでゆ
くとF1一五以布滝があらわれた。昼食をとった後、登

りは始める。一段目は滝の中央をシャワーで直登したが、水のあまりの冷たさに上段は左岸へと逃げる。ホールドは多く、割合と楽に登れる。

つづいてF2八段を登るとF3八段になる。右岸を高捲きしてヤブに入り、滝の落口より沢に出る。もう水量はかなり少なくなってくる。

一二・四〇沢の右側を走る登山道に上がり今日の廻行はこれまでとする。ミズナなどをとりながら金山橋まで下る。

(記・二)

(タイム)

出合九・一〇―橋九・五〇―布滝一・四五一沢終了
一二・四〇―金山橋一三・三〇

金山沢右俣

一九八〇年七月二十日

◆天気(晴時々曇)

林道終点で吾妻川に入るパーティと別れて入谷。一五分程で二俣。右俣には二俣の滝があり、滝の右に大きな岩がある。一五分程で顕著な支流が左から入る。五俣の

滝をかけている。

更に一〇分程でF2八段。右岸を捲く。上部がガレているので慎重に通過。すぐに小滝、そしてその上のF3五段は左岸を捲く。すぐF4六段で、右岸ぞいの少しオーバーハングになっている所を登る。左岸は草付ですべる。

F5を過ぎると滝が次々と出てくる。みんな直登できるものばかりである。F7一二段。ここには倒木がかかっていたので、これを使って登ろうとした半沢君はすべって木にカエルのようにしがみついた。結局倒木の下をくぐり、細いみぞに足を入れてひねってすべらないようにして登る。この上も小滝連続。そして二俣となる。水量は同じ位。右にはワサビがびっしりはえている。左に入る。

F8を越え少し進むとF9、13まで滝が連続する。F15三〇段。この沢最大の滝。滝の途中より二つに分かれている。最初中央を登ってみるが、ぬれていてすべるので右岸に転針。しかし今一步の所でしりぞく。水は冷たい。結局右岸を捲く。

ちよつと歩くと二俣。両方とも一〇段の滝となつてい